

日本地域学会ニューズレター

平成 16 年 no.1

平成 15 年 2 月 1 日

目 次

I. 会長挨拶	...	2
II. 総会報告	...	2
琉球大学で開催された日本地域学会総会についての報告		
III. 理事会報告	...	4
平成 15 年度第 5 回・第 6 回理事会についての報告		
IV. 編集委員会報告	...	5
『地域学研究』第 34 巻の編集についての報告		
V. 役員人事等	...	5
VI. 平成 16 年度 日本地域学会 会費納入のお願い	...	7
平成 16 年度国内および国際会費請求額, さらに会費早期納入の特典について		
VII. 第 41 回日本地域学会年次大会 (平成 16 年 9 月 11-12 日)	...	8
論文報告の募集, シンポジウムについて		
VIII. PRSCO 大会	...	9
IX. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集	...	9
X. 会員の移動	...	9
『地域学研究』バックナンバー申込書		
正会員入会申込書		

I. 会長挨拶

2004年の年頭に感じること

「去年今年 貫く棒の ごときもの」

これは有名な俳句であります。今年は必ずしもこのように行かないかもしれません。今年の日本は、去年までの日本とは様子が大きく異なるどころか、何か大波乱が起こる可能性さえあります。もちろん、そういう私に、確固たる科学的根拠があるわけではありません。リスク研究者としての私が長年養ってきた勘や経験から、「今年は大変な年になるかもしれないぞ」という予感が何となくするのです。もしその予感が不幸にして当たれば、次のような俳句が妥当することになるでしょう。

「去年今年 折れたる棒の ごときもの」

最近のベストセラーのひとつは「逆さメガネ」と題されています。人々は順境にいるときは、物事の推移を連続的に考える傾向があります。時には、「拡大メガネ」を用いて、「今のよき時代は永遠に続くでしょう」と過大に楽天的になる傾向があります。同じことの裏返しですが、悲観は更なる悲観を呼び、悪い方向にも過大視する傾向も見られます。ここは事態の推移を過大にも過小にも評価することなく、「逆さメガネ」というよりは、むしろ「斜めメガネ」で冷静に真相を見極めたいと思います。

正月の「初夢」を敢えて述べさせていただければ、今年日本の地域科学のレベルが飛躍的に向上する年であると期待しております。去年の7月初めに、メキシコのアカプルコという港湾都市で、世界地域学会が開かれましたが、私も久しぶりに参加し、座長や論文報告などの役目をこなしました。遠く離れた日本人の参加数は、「北の隣国」たるアメリカからの参加数よりも大きく、その存在感は大変なものでした。

メキシコは地理的にはアメリカのごく近くにあります。両国の関係は心理的に相当に離れているように感じました。多くのメキシコ人は英語があまり上手でないばかりではありません。彼らは母国語のスペイン語を話すのをむしろ誇りに思っています。事実、少なからざるセッションがスペイン語で行わ

れました。

「スペイン語をマスターすれば、新大陸での旅行はもっともっと楽しくなりますよ」

私も若いときに、スペイン語をもっと真面目に習得しておけばよかったと、何度も悔やまれる思いがしました。とにかく、世界は広い。世界中には、多様な民族、多様な文化、多様な言語が存在します。このような多様性に着目し、独自の分析を行う研究分野があります。それがわが地域科学なのです。地域科学の発展のためには、経済的アプローチだけでなく、工学的アプローチ、環境学的アプローチ、地理学的アプローチ、歴史学的アプローチなど、色々なアプローチが可能なのです。

さらに、去年の秋には、国内大会が沖縄の琉球大学で開催されました。「琉球の風」は「東京の空気」とは明らかに違っていました。真栄城守定教授をはじめとする関係者の助力で、大会は成功裏に終わりました。深く感謝する次第です。本年度の国内大会は9月に、東京の早稲田大学で開かれます。学会員の皆様は、栄えある「早稲田の森」で英気を養われるものと信じております。

学会の成功の秘訣は、ある意味で簡単なことです。それは、「ヒト、ヒト、ヒト」なのです。皆様方からの一層の御支援のほどを衷心から御願ひ申し上げます。

平成 16 年 1 月 1 日

日本地域学会

会長 酒井 泰弘

II. 総会報告

標記総会が、去る平成 15 年 11 月 1 日 (土)13:20 より、琉球大学法文学部新棟 2 階 215 号室で行われました。まず、はじめに日本地域学会会長 (酒井泰弘 滋賀大学 教授) 挨拶の後、外国からの来賓代表として、国際地域学会会長 Prof. Dr. Antoine Bailly より “Which future for RSAI?” と題してのご挨拶を戴きました。この後、酒井会長を議長として下記の通り審議と報告が行われました。

議題

1) 新入会員・退会会員の承認

これに関して氷鉋総務担当常任理事より報告があり、個人会員 84 名の入会および個人会員 37 名と法人会員 2 団体の退会を承認。

2) 平成 14 年度収支決算の報告

これに関して加賀屋財務担当常任理事より支出状況が、宮田監事より決算が適正であることが報告され、異議なく承認。

3) 平成 15 年度収支予算

これに関して加賀屋財務担当常任理事より予算の説明があり、異議なく承認。

4) 第 41 回 (2004 年) 年次大会の開催地、開催校の承認

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、次期大会の開催校を早稲田大学、同大会準備委員長を三友仁志理事とする事が提案され、異議なく承認。

5) 第 42 回 (2005 年) 年次大会の開催地、開催校の取り扱いの承認

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、西日本を中心に折衝する予定であるとの説明があり、その取り扱いについては事務局へ一任する事が提案され、異議なく承認。

6) 国際地域学会の改革

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、改革内容の報告および対応を理事会に一任することが提案され、意義なく承認。

7) その他

なし

報告

1) 新入会員キャンペーンの継続

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、引き続き新入会員勧誘キャンペーンを継続する事が報告された。

2) 『地域学研究 (第 34 巻)』編集委員会の構成

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、規程に従い常任理事、座長、No.2 編集委員および会長指名の若干名で構成される事が報告された。

3) 『地域学研究』第 33 巻の編集

これに関して原編集委員長より、編集状況が報告された。

4) *Studies in Regional Science*, Vol.33, No.2 の編集

これに関して多和田編集委員長より、編集状況が報告された。

5) 環太平洋地域学大会機構 (PRSCO) 2005 年第 19 回大会

これに関して氷鉋総務担当常任理事より、田中啓一理事を大会実行委員会委員長として日本大学において 2005 年 7 月 25-28 日の予定で開催されることが報告された。

6) RSAI の動向

これに関して氷鉋総務担当常任理事より報告があった。

7) PRSCO の動向

これに関して氷鉋総務担当常任理事より報告があった。

8) その他

なし

この後、2003 年度第 12 回学会賞の授与式が執り行われました。青山選考委員長より経過報告の後、酒井会長より下記会員に各賞が授与され、受賞者よりご挨拶いただき、総会は無事閉会しました。

功績賞 (第 15 号) 関根 正行

功績賞 (第 16 号) 太田 浩

論文賞 (第 12 号) 高橋 秀悦「グローバル・エコノミーのマクロ経済分析」

奨励賞 (第 16 号) 水野谷 剛「霞ヶ浦流域における水質改善技術評価と最適環境経済政策に関する研究」

奨励賞 (第 17 号) 前鶴 政和「寡占競争下における研究開発および貿易政策について」

奨励賞 (第 18 号) 坂本 麻衣子「開発と環境のコンフリクトにおける合意形成に関する研究 - 長良川河口堰問題を対象として -」

著作賞 (第 7 号) 福岡 克也「エコロジー経済学」

著作賞 (第 8 号) 原 勲「地域経済学の新展開」

著作賞 (第 9 号) 近藤 健児・多和田眞・松葉敬文・李曉春・平岩恵里子「労働者管理企業と労働移動の経済学」

著作賞 (第 10 号) 河野 正道「経済発展と成長の基

礎理論」

III. 理事会報告

平成 15 年度 第 5 回理事会

日 時：平成 15 年 10 月 31 日 (金)18:00-20:00

場 所：パシフィックホテル沖縄 ワイケレの間

出席者：青山, 有吉, 加賀屋, 河村, 河野, 酒井, 鈴木, 高橋, 多和田, 信国, 原, 氷鉤, 藤岡, 眞栄城, 三友, 山村の各理事 (ただし, 浅見, 今泉, 白井, 河上, 木村, 熊田, 斉藤, 福岡, 矢田の各理事より委任状付託); 宮田監事; オブザーバとして Peter Batey, Graham Clark; 大塚次期大会実行委員; 小林, 櫻井, 森島の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申込のあった正会員 (個人会員)32 名の入会と正会員 3 名, 法人会員 1 団体の退会希望を審議し, 次回総会に諮る事を諒承。

2. 平成 15 年第 40 回年次大会の運営

これに関して, 氷鉤総務担当常任理事より, プログラムの変更が示され, 諒承。総会次第については役割分担を決定。

3. 次期年次大会開催地・開催校

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 早稲田大学が候補として提案され, これを諒承。期間は 9 月 11-12 日の予定。

4. 次々期年次大会開催地・開催校

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 西日本で検討中であることが報告され, 事務局に一任することを諒承。

5. 『地域学研究 (第 34 巻)』編集委員会の構成

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 規程に基づき, 常任理事, 座長, No.2 の編集委員および会長指名の外国人若干名で構成されることが報告され, これを諒承。

6. 平成 15 年度会費未納者の措置

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 例年通り紹介者の理事を通じて督促したい旨提案があり, これを諒承。

7. 環太平洋地域学大会機構 (PRSCO)2005 年第 19

回大会

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 日本大学において 2005 年 7 月 25-28 日の予定で開催されることが報告され, これを諒承。

8. 国際地域学会の改革

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 会員拡大のためにインターネットを利用した低会費の会員カテゴリを作ること, および各地域組織の会員を国際会員とするなどの改革が進んでいることが報告され, 日本地域学会もこの方向を支持するものの対応は時間をかけておこなうことを諒承。

9. その他

報告事項

1. 『地域学研究』第 33 巻 No.1, No.3 の編集

これに関して原編集委員長より, 編集状況が報告された。

2. *Studies in Regional Science*, Vol.33, No.2 の編集

これに関して多和田編集委員長より, 編集状況が報告された。

3. 第 19 期日本学術会議経済政策研究連絡委員会委員候補者の推薦の件

これに関して氷鉤総務担当常任理事より, 会長と相談の上, 多和田理事を推薦したことが報告された。

4. RSAI の動向

5. PRSCO の動向

6. その他

平成 15 年度 第 6 回理事会

日 時：平成 15 年 12 月 14 日 (日)13:00-14:30

場 所：日本交通政策研究会 会議室

出席者：青山, 有吉, 白井, 加賀屋, 河村, 熊田, 河野, 斎藤, 酒井, 田中, 多和田, 信国, 原, 氷鉤, 藤岡, 細江, 眞栄城, 三友, 宮城の各理事 (ただし, 今泉, 河上, 木村, 鈴木, 高橋, 戸田, 矢田, 山村の各理事より委任状付託); オブザーバとして太田編集委員; 大塚次期大会実行委員; 小林, 櫻井, 水野谷, 森島の各幹事; 坂田事務局秘書

審議事項

1. 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降、申込のあった9名の正会員および1団体の法人会員の入会を審議し、次回総会に諮る事を諒承。

2. 第40回(2003年)年次大会の会計報告

これに関して眞栄城大会実行委員長および氷鉤総務担当常任理事より、会計報告が行われ、これを了承。

3. 第41回(2004年)年次大会準備委員会の構成

これに関して氷鉤総務担当常任理事より、理事および幹事に開催校準備委員候補を含めて委員会を構成する事の提案がありこれを諒承。

4. 第41回(2004年)年次大会の平行セッションおよびシンポジウムの編成

これに関して氷鉤総務担当常任理事より提案があり、開催校実行委員および事務局に一任することを諒承。

5. 『地域学研究』セット販売の推進

これに関して氷鉤総務担当常任理事より、『地域学研究』のセット販売推進が提案され、これを諒承。

6. 新入会員勧誘キャンペーン

これに関して氷鉤総務担当常任理事より、引き続き勧誘キャンペーンを継続する事が提案され、担当者を若干変更した後、これを諒承。なお、各理事の任期中に2名の会員の入会を推薦するという目標を確認。

7. その他

(1) 日本経済学会連合国際会議派遣候補者の推薦の取扱

これに関して氷鉤総務担当常任理事より、例年通り扱うことが提案され、了承された。

報告事項

1. 『地域学研究』第34巻No.1の編集

2. *Studies in Regional Science*, Vol.33-34, No.2の編集

3. RSAIの動向

4. PRSCOの動向

5. その他

IV. 編集委員会 報告

『地域学研究(第34巻)』第1回 編集委員会

日時：平成15年12月14日(日)11:00-12:25

場所：日本交通政策研究会 会議室

出席者：青山、浅田、阿部、有吉、白井、太田、岡村、加賀屋、鐘ヶ江、河村、木南、熊田、河野、斎藤、酒井、田中、徳永、信國、原、氷鉤、藤岡、細江、眞栄城、松本、三橋、三友、宮城、藪田の各委員(ただし、秋田、今泉、河上、木村、鈴木、高橋、多和田、戸田、萩原、の各委員より委任状付託); 小林、櫻井、水野谷、森島の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 『地域学研究』第34巻No.1の掲載候補論文の選考

座長評価表に基づき、投稿を依頼する候補を選考。

2. 同上機関誌印刷方針

氷鉤総務担当常任理事より、昨年同様No.1とNo.3として発刊することが提案され、これを諒承。

3. 同上機関誌書評欄応募図書取扱

例年通り応募があった場合の書評執筆者を編集委員長および事務局に一任することが提案され、これを諒承。

4. *Studies in Regional Science*, Vol.33-34, No.2の編集

多和田No.2編集委員長欠席のため氷鉤総務担当常任理事より、委員長の資料に基づき報告があり、これを了承。

5. 平成16年度第13回学会賞の選考方針

氷鉤総務担当常任理事より、候補を公募すること、および次回編集委員会で選考を行うことが提案され、これを諒承。

6. その他

V. 役員人事等

各種委員会等の構成についてお知らせします。

1. 第41回(2004年)年次大会準備委員会および実行委員会

今年度の年次大会は、早稲田大学(〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-3-10)で開催されます。主として、その開催準備の労をおとり頂く準備委員会委員の方々には以下の通りです。

委員長(準備委員長):

三友 仁志(早稲田大学 国際情報通信研究科)

委員:

稲葉 敏夫(教育)

藁谷 友紀(教育)

中川 義英(理工)

樋口 清秀(理工,但し4月1日より国際教養学部)

大塚 時夫(早稲田大学情報通信研究科)

なお,この他に学会役員および幹事が準備委員の任に当たります。また,当日の実行委員会は上記準備委員会で構成します。

2. 『地域学研究(第34巻)』編集委員会および第13回学会賞選考委員会

規程により,標記編集委員会は平成15年度年次大会実行委員長が編集委員長,前巻の編集委員長が副委員長となり,会長,副会長,および総務,財務,庶務,の各担当常任理事および年次大会各セッションの座長が中心となって構成されます。

また,標記の学会賞選考委員会は,同編集委員会委員が委員を兼任し,前巻編集委員長が委員長,同副委員長が副委員長となって構成され,各々以下のとおりです。

『地域学研究(第34巻)』編集委員会

委員長: 眞榮城 守定(琉球大学)

副委員長: 原 勲(北星学園大学)

委員:

青山 吉隆(京都大学)

秋田 隆裕(国際大学)

浅田 統一郎(中央大学)

浅見 泰司*(東京大学)

阿部 宏史(岡山大学)

有吉 範敏(熊本大学)

白井 功*(横浜国立大学)

太田 浩(青山学院大学)

岡村 誠(広島大学)

加賀屋 誠一(北海道大学)

鐘ヶ江 秀彦(立命館大学)

河上 省吾(関西大学)

河村 能夫(龍谷大学)

衣笠 達夫(流通科学大学)

木南 莉莉(新潟大学)

熊田 禎宣(千葉商科大学)

河野 博忠(常磐大学)

齋藤 参郎(福岡大学)

酒井 泰弘(滋賀大学)

宍戸 駿太郎((財)環日本海経済研究所)

鈴木 多加史(追手門学院大学)

高橋 秀悦(東北学院大学)

田中 啓一(日本大学)

多和田 眞(名古屋大学)

徳永 澄憲(筑波大学)

戸田 常一(広島大学)

信國 眞載(名古屋市立大学)

萩原 清子(東京都立大学)

氷鉤 揚四郎(筑波大学)

福岡 克也(東亜大学)

福地 崇生(朝日大学)

藤岡 明房(敬愛大学)

細江 守紀*(九州大学)

松岡 勝博(那須大学)

松本 昭夫(中央大学)

三橋 博巳(日本大学)

三友 仁志(早稲田大学)

宮城 俊彦(岐阜大学)

宮田 譲(豊橋技術科学大学)

矢田 俊文*(九州大学)

藪田 雅弘(中央大学)

山村 悦夫(北海道大学)

Peter Batey* (*University of Liverpool*)

Kingsley Haynes* (*George Mason University*)

Geoffrey Hewings* (*University of Illinois*)

Lars Lundqvist* (*Royal Inst. of Tech.*)

Gordon Mulligan* (*University of Arizona*)

Peter Nijkamp* (*Free University, Amsterdam*)

David Plane* (*University of Arizona*)

Jacques Poot* (*Victoria Univ. of Wellington*)

John Quigley* (*Univ. of California, Berkeley*)

Michael Sonis* (*Bar-Ilan University*)

Roger Stough* (*George Mason University*)

会長 酒井 泰弘

(* 理事会推薦による会長委嘱)

学会賞選考委員会 (第 13 回)

委員長: 原 勲 (前出)

副委員長: 青山 吉隆 (前出)

幹事: 櫻井 一宏 (筑波大学生命環境科学研究科)

委員: 上記編集委員

4. Editorial Board of *Studies in Regional Science*, no.2

Editor

Makoto Tawada (Nagoya University)

Co-Editor

Masahisa Fujita (Kyoto University)

Co-Editor

Shogo Kawakami (Nagoya University)

Co-Editor

Akio Matsumoto (Chuo University)

Associate Editors

Peter Batey (University of Liverpool)

Kingsley Haynes (George Mason Univ.)

Geoffrey Hewings (University of Illinois)

Yasuhiro Sakai (University of Tsukuba)

Yozo Ito (Senshu Univ.)

Lars Lundqvist (Royal Inst. of Tech.)

David Plane (University of Arizona)

Jacques Poot (Victoria Univ. of Wellington)

John Quigley (Univ. of California, Berkeley)

Toshihiko Miyagi (Gifu Univ.)

Makoto Nobukuni (Nagoya City Univ.)

Peter Nijkamp (Free Univ.)

Michael Sonis (Bar-Ilan University)

Managing Editor

Yoshiro Higano (Univ. of Tsukuba)

VI. 平成 16 年度 日本地域学会 会費納入のお願い

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、早速ですが、同封致しました請求書のとおり、日本地域学会平成 16 年度会費をご請求申し上げますので、

納入期限: 平成 16 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払い頂けます様お願い申し上げます。

なお、預金口座引落しの手続きを平成 16 年 3 月 20 日までに完了された方には、平成 16 年 6 月 28 日に請求内容にしたがって引落しを行いますので、お早めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減、さらに予想されます円安傾向の為替リスク回避のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、かさねてお願い申し上げます。 敬具

1. 平成 16 年度 日本地域学会 会費等 (適用期間限定)

- (1) 平成 16 年度 (平成 16 年 4 月 1 日 - 平成 17 年 3 月 31 日) 国内会費 **7,000 円**
- (2) 2004 年度 (2004 年 1 月 1 日 - 2004 年 12 月 31 日) 国際会費 **8,000 円 (US\$65.00)**
- (3) *International Regional Science Review* 誌 (割引) 講読料 **2,500 円 (US\$20.00)**
- (4) 学生会費 **8,700 円**: 学生である会員については、国内会費 + 国際会費 + *IRSR* 誌 (割引) 講読料をセットで、8,700 円に割引きます。身分証明証のコピーを fax 等で事務局宛お送りのうえ、請求書の金額にかかわらず、8,700 円をご納入下さい。

但し、これらの会費、講読料が適用されるのは、

- (a) 納入期限: 平成 16 年 3 月末日までに上記会費を納入された日本地域学会 会員の方、または
- (b) 平成 16 年 3 月 20 日までに預金口座引落しの手続きを完了された日本地域学会 会員の方に限ります。

2. 国際会費の期限内納入の特典

日本地域学会 理事会では、本学会所属の RSAI 会員 directory の本部送付を例年どおり 4 月上旬とする事にしました。今まで RSAI 会員であった方は、3 月下旬までに特にお申し出がない限り継続扱いとなります。この点ご注意願います。

また、これに関連して外国為替市場の成り行きが不透明な事もあって、上記の金額で期限を遅れて RSAI 会費をご納入いただいても、著しく為替差損を生じ、これを日本地域学会の一般会計が負担しなければならぬ危険がかなり高いものと見込まれます。

この様な事を考慮して、上記納入期限に遅れた場合には、

- (1) 国際会費として 10,000 円を請求する。
- (2) *IRSR* 誌(割引) 講読料として 3,000 円を請求する。
- (3) 学生割引を行わない。

という事を理事会で決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

VII. 第 41 回日本地域学会年次大会

(平成 16 年 9 月 11-12 日)

論文報告の募集

平成 16 年度(2004 年)日本地域学会第 41 回年次大会は、早稲田大学において下記のとおり開催されます。会員諸賢におかれましては論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

記

開催日時: 平成 16 年 9 月 11 日(土)-12 日(日)
開催校: 早稲田大学
開催地: 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-3-10
早稲田大学 国際情報通信研究科
大会準備委員会 委員長: 三友 仁志
(早稲田大学国際情報通信研究科教授 日本地域学会理事)

共通論題:

- (a) 地域情報化
- (b) 情報通信と都市
- (c) 産業集積と情報
- (d) 情報経済理論

- (e) 情報化と国際競争・協調
- (f) 情報通信技術と空間経済
- (g) 地方分権と地方財政
- (h) 地域および地球環境
- (i) 道路交通とネットワーク
- (j) テーマパークと地域発展
- (k) 大都市問題
- (l) 持続可能都市・地域システム
- (m) 中心市街地空洞化問題
- (n) 多地域経済成長モデル

一般論題: 立地, 人口移動, 地域経済, 等の地域学一般の課題すべて

総会日時: 平成 16 年 9 月 11 日(土) 13:20-(予定)

(公開) シンポジウム日時:

平成 16 年 9 月 11 日(土) 14:20-(予定)

シンポジウム・テーマ: (仮) 「地域情報化の再評価」
以上

[論文報告] を希望される方は、

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名, 所属(複数の場合には、発表者を明記)
4. 同上英文表記
5. Abstract: 和文(700 字以内) および英文(200 words 以内) の双方を提出
6. 対応責任者氏名, 連絡先住所, tel, fax, e-mail アドレス等
7. 希望討論者 2 名(会員に限る; 場合によっては、希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

を明記して、また、

[特別セッション編成] を希望される方は、

- (i) セッションタイトルおよびセッションの意図、内容等の概要(和文 300 字以内, 英文 100 words 以内)
- (ii) 座長(1-2 名の会員) 氏名, 所属, 同英文表記
- (iii) 1 セッション当たり, 3-4 編の報告を目途に各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し, 討論者は, 各々の論文について 1 名でも可。

を明記して,e-mail, fax または封書等で奮ってご応募下さい(応募締切:平成16年4月20日)。なお,今年 は例年より1ヶ月以上開催時期が繰り上がっています。早めの応募をお願いします。

問い合わせおよび論文報告等の応募は以下へお願いします。

氷鉤 揚四郎(ひがの ようしろう)

日本地域学会

事務局長(総務担当常任理事)

筑波大学 農林工学系 教授

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1

tel,fax: +81-298-53-7221

E-mail: higano@jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp

VIII. PRSCO 大会

今年 は,夏季研修集会の年にあたり,南米のチリで9月下旬の3日間を予定して準備を進めています。詳しいことはPRSCO評議会で決まり次第お知らせします。

IX. 学会賞 授賞者選考候補者推薦の募集

日本地域学会では,地域学(Regional Science)の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえるため,日本地域学会 学会賞を毎年授与しています。今年度も第13回日本地域学会 学会賞授賞者選考候補者推薦の募集を行いますので,どうか奮ってご応募下さい。

学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞: 地域学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞: 優れた研究論文によって地域学の発展に著しく寄与し,研究業績の意義や貢献が多である会員を表彰する。

奨励賞: 若手研究者で優れた研究論文を発表した会員を表彰する。

授賞者には,賞状と純銀製メダルが授与されます。

(http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/Award/appl_jap.html を参照)

第13回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦 応募要領

◇**応募期限:** 平成16年4月9日(月)(事務局必着)

◇**応募方法:** 功績賞への応募は他薦のみですが,論文賞と奨励賞への応募は自薦,他薦の別を問いません。

◇**推薦資格:** 推薦者は,日本地域学会会員であることが必要です。

◇**受賞資格等:**

(1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は,過去2年間(暦年)に発表したもので,その主たるものが本学会関連誌『地域学研究(*Studies in Regional Science*)』および *Papers in Regional Science of the RSAI* に掲載されている論文であることが条件です。

(2) 奨励賞の応募にはについては,年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時35才未満であったことが必要です。

◇**選考方法:** 「日本地域学会 学会賞(奨励賞・論文賞・功績賞)に関する規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第,授賞者には連絡します。

◇**授賞式:** 第41回年次大会における総会(平成16年9月11日(土)早稲田大学)にてとりおこないます。

◇**応募用紙の請求:** 日本地域学会事務局まで賞の種類を明記してご請求下さい。

X. 会員の移動

新入会員

正会員

安高 優司((株)オーグス総研コンサルティング部シニア研究員)

李 淳聖(中央大学大学院経済学研究科大学院生)

石坂 悦男(法政大学社会学部教授)

一楽 一成(徳島大学大学院工学研究大学院生)

伊藤 敏安 (広島大学地域経済システム教授)
 稲葉 敏夫 (早稲田大学教育学部教授)
 猪原 龍介 (京都大学大学院経済学研究科博士課程)
 今津 佳都子 (筑波大学環境科学研究科大学院生)
 岩橋 培樹 (京都大学大学院経済学研究科博士課程)
 白井 裕美子 (慶應義塾大学大学院政策メディア研究科大学院生)
 内田 晋 (筑波大学環境科学研究科修士課程)
 内田 達也 (青山学院大学国際政治経済学部助教授)
 内山 俊介 (東京工業大学大学院情報理工学研究科修士課程)
 梅原 大生 (東京ほくと医療生協本部専務理事)
 遠藤 ひとみ (東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻博士課程前期)
 大澤 俊一 (札幌学院大学経済学部教授)
 奥谷 貴之 (早稲田大学大学院国際情報通信研究科大学院生)
 梶 秀樹 (慶應義塾大学総合政策学部教授)
 金守 隆仁 (早稲田大学大学院国際情報通信研究科大学院生)
 金子 浩也 (筑波大学環境科学研究科修士課程)
 兼田 敏之 (名古屋工業大学おもひ領域助教授)
 神田橋 大和 (九州大学大学院経済学府大学院生)
 神林 邦明 (早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程)
 金 エリ (早稲田大学大学院国際情報通信研究科博士課程)
 金 湛 (龍谷大学大学院経済学研究科大学院生)
 金 真朱 (筑波大学環境科学研究科修士課程)
 呉 金虎 (龍谷大学大学院経済学研究科大学院生)
 古在 由春 (筑波大学博士課程農学研究科大学院生)
 小松 拓磨 (日本大学大学院経済学研究科大学院生)
 近藤 明子 (徳島大学大学院工学研究科大学院生)
 蔡 碧月 (筑波大学大学院環境科学研究科研究生)
 境 和彦 (九州大学大学院経済学府博士後期課程)
 作間 逸雄 (専修大学経済学部教授)
 佐藤 康仁 (東北学院大学経済学部専任講師)
 佐藤 祐一 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士課程)
 佐橋 義直 (大阪府立大学経済学部助教授)
 重兼 薫 (岡山大学大学院自然科学研究科大学院生)

澁田 英敏 (近畿大学九州短期大学生活福祉情報科助教授)
 清水 亮介 (慶應義塾大学環境情報学部)
 新家 誠憲 (岡山大学大学院自然科学研究科大学院生)
 杉山 博章 (筑波大学大学院環境科学研究科修士課程)
 高橋 篤史 (筑波大学環境科学研究科修士課程)
 高橋 尚人 (北海道開発土木研究所道路部交通研究室主任研究員)
 竹川 宏子 (横須賀市都市政策研究所研究員)
 武田 洋紀 (筑波大学環境科学研究科修士課程)
 谷口 昭彦 (専修大学大学院経済学研究科博士後期課程)
 玉城 清 (株式会社AZ Planning 顧問)
 張 鍵 (豊橋技術科学大学環境・生命工学専攻博士課程1年)
 董 晶輝 (東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻博士課程後期)
 中尾 靖之 (東京都庁総務局統計部経済統計課生計調査係長)
 中村 光毅 (株式会社日本総合研究所調査部支配人)
 仲本 博重 (沖縄県嘉手納町議会町議会議員)
 永禮 拓也 (岡山大学大学院自然科学研究科大学院生)
 南林 さえ子 (駿河台大学経済学部教授)
 Niklas Z.Kviselius (早稲田大学大学院国際情報通信研究科研究者)
 西村 教子 (鳥取環境大学環境政策学科講師)
 二宮 浩輔 (九州共立大学経済学部助教授)
 根上 彰生 (日本大学理工学部教授)
 萩原 亨 (北海道大学大学院工学研究科助教授)
 箱木 禮子 (福島大学経済学部教授)
 畑山 満則 (京都大学防災研究所総合防災研究部門助手)
 花園 祥子 (都市空間情報行動研究所ポストドクター)
 羽生 和夫 (東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻博士課程後期)
 MD.Nor Hayati Bin Tahir (早稲田大学大学院国際情報通信研究科)
 原 宜大 ((株)AZ Planning 営業企画部チーフ)

廣野 桂子 (日本大学大学院グローバルビジネス研究科)
古澤 浩司 (群馬大学大学院工学研究科大学院生)
堀江 典子 (東京都立大学大学院都市科学研究科修士課程)
増田 清敬 (北海道大学大学院農学研究科博士課程)
町 ゆかり (奄美群島広域事務組合鹿児島県奄美パーク学芸専門員)
松山 敬左 (秋田県立大学システム科学技術学部教授)
真谷 信行 (北海道大学大学院工学研究科大学院生)
三阪 朋彦 ((株) 三阪建築設計事務所設計)
Mohd Gazali Abas (早稲田大学国際情報通信研究科)
森野 真理 (横浜国立大学大学院環境情報研究院 COE フェロー)
八木 俊道 (日本大学法学部教授)
横山 大輔 (慶応義塾大学大学院政策メディア研究科)
吉村 輝彦 (国連地域開発センター研究員)
李 曉春 ((株) ユニソン経営企画部 中国室)
和合 肇 (名古屋大学大学院経済学研究科教授)
和田 真理子 (京都大学大学院工学研究科土木システム工学専攻博士後期課程)
渡辺 理 (富士通研究所 Web & IP サービス研究部)
王 勤耕 (筑波大学農林工学系研究留学生)
王 徳 (同済大学建築・都市計画学院教授)

法人会員
株式会社 安田

退会会員
正会員
赤堀 宏晃
石黒 道人
岩佐 正章
上山 仁恵
大内 丈士
岡 敦子
折田 仁典
神田 栄俊

工藤 健一
国久 荘太郎
小池 則満
神品 光弘
後藤 昭八郎
近藤 正規
佐々木 昭喜
佐々木 栄洋
白柳 博章
杉浦 勝章
鈴井 清巳
田口 祥一
竹内 功
田島 宏
谷口 建
林 豪人
半沢 文雄
藤川 清史
藤牧 浩一
森島 賢
姚 海天
矢島 隆志
山内 昭
山本 芳隆
劉 勤
綿拔 邦彦

法人会員
株式会社 アクト・ブレーション
会津短期大学